

入間川の岸辺を美しくする会「左岸」



ふと、気になった雑草が
始まりでした



代表の
加藤富美子さん

今から14年前、狭山市入間川七夕まつりの花火大会で入間川を訪れた際に、河川敷沿いにうっそうと生い茂っている雑草が目につきました。せっかくの花火も、これでは台無し。市に連絡をして、夫と一緒にこの雑草を刈り始めたのが、この会の活動の第一歩でした。

最初に始めたのが、秋の花粉症や小児喘息の元凶である外来植物オオバクサの除去。なんと、除去する前と後ではアレルギー患者の方が減ったと、後から地元眼科の先生に伺いました。

また、雑草の除去を進めていくと、奥から出てきたのは曼珠沙華の花。その他にも、たくさんの花が自生していることが分かりました。昨年の台風19号で、曼珠沙華やネジバナなどは流され、かなりの数が減ってしまいました。川に被害はつきもの。また、元の姿に戻せるよう、会員一同で取り組んでいこうと思っています。

この会を支えるのは
地元の応援団



この会の活動を続ける上でどうしても必要なのが、人手です。人の背丈以上もある雑草の除去や刈払機の操作、台風後の清掃など、私たちだけでは到底できない作業が幾つもありました。

雑草の除去を始めた翌年、「何をしたいのか」と西武学園文理高等学校の高田先生が声を掛けてくださり、生徒と一緒に手伝ってくれることになりました。これをきっかけとして、現在では西中学校の生徒や小岩井乳業株式会社の方、最近では武蔵

野学院大学の学生が応援団として活動してくれています。

子どもたちが
笑顔で駆け回る河川敷に

私の理想は、この河川敷が子どもたちの遊び場となり、家族でピクニックなどに来てもらえるようになること。私たちが手入れしている場所が、まさに今「入間川とことん活用プロジェクト」で生まれ変わろうとしています。

たくさんの方が訪れ、この河川敷の素晴らしさを分かってもらうことが、私たちにとって今までの活動をしてきたご褒美です。



源義高鯉のぼりの会

この地の歴史を
伝承するために

河川敷中央公園にトイレや駐車場ができたタイミングで、これでは人が集まれるようになったから何かしよう、という話になりました。そこで、この地で命を落としたといわれる源義高の逸話を狭山に住む人々に伝え、義高の供養と子どもたちの健康、成長を祈念して始めたのが、この鯉のぼりの掲揚です。最近では、家で鯉のぼりを掲げる家庭が少なくなってきたので、たくさんさんの鯉のぼりが上がっている姿を見て、触って、写真を撮ってと、好きに楽しんで欲しいと思っています。

一番は私たちが
「楽しむ」こと

これは元々、自分たちがやりたくてやっていることなので、ボランティアや慈善事業という意識はありません。観光スポットになつてくれれば嬉しいですし、また、これをきっかけに狭山市を訪れた人たちが、入間川の歴史に触れて、ここで子育てをしたいと思

つてくれたら、この上なく嬉しいです。

やるからには中途半端なものにはしたくない、どうすれば鯉がきれいに見えるのか、写真映えするのか、もっと他のアイデアはないのかなどをよく話し合っています。一度、川に鯉のぼりを沈めたら面白いのでは？と試してみましたが、これは大失敗。いろいろと試してみても、より良いものに育てていければと思っています。

もっと、たくさんさんの鯉を
泳がせたい

将来の目標は狭山市駅から、新



左から会長の木村義宜さん、副会長の堀口昌宏さん、桂有史さん

富士見橋まで鯉のぼりをつなげること。狭山市入間川七夕まつりで屋台が並ぶあの通りに鯉のぼりが連なったら、すごく面白いと思います。ただ、それを実現するまでは時間がかかりそうなので、現在の目標は新富士見橋から昭代橋まで鯉のぼりをつなげることです。目標達成には、かなりの量の鯉のぼりが必要となります。ご家庭に眠っている鯉のぼりがあれば、ぜひ実行委員会に寄付をお願いいたします。

